

## (2) 発達心理科

### 概要、特色

こころの診療部 発達心理科は、宮尾益知医長と中野三津子医師が診療を担当している。対象年齢は、こころの診療部の中で、発達心理科は幼児から学童期のお子さんの「こころの問題」に多面的かつ継続的に深く関わっていく。

### (a) 子どものこころ（脳からみたこころ）

現代の子どものこころについて様々な問題があげられている。「きれる」、「ルールが守れない」、「学校に行きたくない」、「家から出られない」などの行動の問題、「書くこと」、「読むこと」、「覚えること」が他の能力に比較して著しく劣っている学習の問題、「友達ができない」、「人の気持ちがわからない」、「言葉のニュアンスがわからない」などコミュニケーションの問題などなど。これらの問題のなかには、学校や家庭でのさまざまな問題だけではなく、子ども自身が持っている多動、不器用、対人関係の問題、学習の問題などに関係した「脳の機能：認知」に問題があることが多々ある。これらの問題について、発達心理科は、様々な観点から最新の脳機能検査法も用いながらアプローチを行い、診断そしてその子どもにあった様々な機関と連携しながら、治療を行ってきた。（宮尾）

### (b) 子どものこころ（こころからみた脳）

子どものこころの問題について、生まれ育ってきた環境、社会・背景としての学校（先生や友達）、様々な心がぶつかり合い葛藤しながら大人になっていく家庭（兄弟や両親）など様々な要素が絡み合って、その子どものこころに問題が生じて来る。「爪かみ、抜毛、チックなどの習癖」、「不登校」、「家庭内暴力」、「引きこもり」、「摂食障害」、「様々な精神疾患」などは、個々の発達の途上で表面化した心身の症状や行動上の問題である。これらの症状に対して相談を受け、地域社会との関係、対人関係などとの視点からアプローチしている。（中野）

### (c) 身体的疾患を持つ子どものこころ（コンサルテーション・リエゾン）

国立成育医療センターには、様々な身体的疾患を持つ子ども達が通院したり、入院したりしている。今までこれらの子ども達の「こころのケア」については、あまり注目されていなかった。しかしこれらの重症疾患の子ども達、慢性疾患の子ども達には様々な発達の問題あるいはこころの問題をかかえている。これらのことは、病気を持つ子ども達だけではなく、家族特にその兄弟、ご両親などにあるいはご家族全体についておこってくる可能性がある。発達心理科は、それらの問題についても身体的あるいは基礎となる疾患を治療している科の医師達と一緒に、病気を治すだけではなくその子どもが存在感のある一人の人間として生きていけるよう「こころの面」からサポートしている。

### (d) 地域との連携

\* 現在の子供たちにもっとも欠けている社会技能について、普通学級に在籍しながらももっとも問題が多い発達障害特に非言語性学習障害、高機能自閉症、アスペルガー症候群について、社会技能訓練（Social skill training）を、こころの診療部レジデントと音楽療法の観点から多摩美術大学非常勤講師長田有子、心理学的観点から白百合女子大学五十嵐一枝教授により、平成15年2月より、月二回のセッションを、国立成育医療センター内の光明養護学校そよ風分教室において、各10名程度の対象児に対して開始した。スタッフとして、院外ボランティアの白百合女子大学、お茶の水女子大学、日本リハビリテーション専門学校作業療法科、武蔵野美術大学、世田谷区言葉の教室教諭、臨床心理士などが参加している。回数を重ねるごとに、もっとも問題があると考えられていた

社会技能が向上している様子が見られる。

\* 「子どものこころ」を知るための勉強会、講演会など

「子供のこころをどう考えるか」の講演会を開催した。「子供のこころの発達と問題点について」の講演会を月一回程度開かれた形で開催していく。

主訴は、言葉の遅れ、対人関係、学習の問題、習癖（抜毛、爪かみ、チックなど）が主なものであり、診断として、広汎性発達障害、注意欠陥多動性障害、学習障害、神経症、鬱病などが主なものであった。当科としては、広汎性発達障害、注意欠陥多動性障害、学習障害などについては、最近の概念であり、成人精神科領域での疾患に対する理解が不十分であるため、成人期であっても発達障害が疑われる場合には、積極的に診断、治療を行う体制にしている。そのため、成人期の患者も成人精神科から紹介されることが増えてきていることも、成育という概念からは望ましいことと思われるが、成人期特有の問題家族関係、社会的問題など複雑な要素がある場合もあり、成人精神科との共同診療も積極的に行うこととしている。